

子育ては、教育は3つの姿で

園長 小島 澄人

「子は前向きの姿、横向きの姿、後ろ向きの姿で育つ」、よく幼稚園の入園式や懇談会でお話しさせていただきましたが、久しぶりにこの言葉を思いだしました。お父さんもお母さんも、先生方にも年に何回か取り上げていました。前向きの姿は、大切にされているようですが、横向きも後ろ向きも大切かもしれません。

子どもとかかわる時、よく聞いてあげる、受け入れてあげる、丁寧にお話をする等、時間をつくり、耳を傾け、面と面を合わせています。「ねえねえ聞いてよ教えてよ」、幼稚園から帰ってくると子どもたちは話したいこと、いっぱいあります。子どもにとって、お父さんお母さんがすべてです。

大切な幼稚園生活は先生がすべてです。先生、それは園児にとってあこがれであり、大好きの対象です。家庭から出て最初の先生です。憧れの先生でありたいと誰もが思うものですが、つついそうでなくなってしまう、それはあってはいけません。子どもにとって、いつまでも憧れの先生であってほしいものです。幼稚園の先生、ほとんどの方が幼稚園時代の先生に憧れてその職に就く方が多い。憧れは、また繰り返されたいものです。

横向きの姿、子どもの為家庭の為一生懸命働く姿、お食事を作り、掃除をし、時には話も聞き、頑張っている姿は子どもには輝いて見えます。子どもに熱があれば自分のことのように心配し、子どもたちの体調にも毎日のように気を遣う姿は子どもにとっては最高の子育てです。先生方にも素敵な保育を目指して、一工夫したり研修したり、準備をする姿は大切です。毎日の保育を振り返り、反省し、また努力する、その繰り返しです。その繰り返しが子どもたちの信頼につながり、大きく大きくしていきます。

初めての幼稚園、子どもが会う初めての学校、けどその様子を見ることもできませんが、お仕事をする時も家事をしながらもひと時も子どものことを忘れないのが常です。子どもを心配し、子どもを信じ、先生を信じ、自分は見えなくても子どもを応援する、最高の子育てです。先生方も子どもたちが帰った後、明日を楽しみにニコニコでお迎えし、笑顔の姿を、と思うこと、大切であり、その準備が、後ろ向きの教育です。

冬休み、新年、良き年になるよう願うばかりです。振り返り、よく反省し、気持ちを新たに頑張ります。また、来年もよろしく願います。